

問 多様な体制で 子育て支援の充実を

答 待機児童解消を最優先する



みすずの会
えり 恵利 議員

問 子育て環境、取り組み方は家庭ごとに違うため、育児の在り方を選択できる多様な体制を整えることが理想。「保育ママ」制度について考えは。

答 有効な取り組みの一つと考える。

問 親が安心して働くためにも保育施設の整備は大切。プレハブで計画中の新保育所で園児一人当たりの維持管理費はいくらか。

答 児童一人当たり年間約135万円と試算。

問 保育の無償化で入所希望者が増加し、受け入れ困難な状況も予

測される。一方、家庭で育てることも立派な仕事と考え、育児への公平な支援として育児休暇のない家庭に在宅育児手当導入の検討を。

答 手当の支給ではなく、社会全体でサポートすることが大事。在宅育児手当は考えていない。

問 貴重な緑地、積極的に保全を

答 「村民の森」指定を平地林にも拡大

問 緑地を守るルール作りを訴えてきたが、16haもの森林伐採計画が進行中。村の考えは。

答 個人の財産で権利もあり、難しい問題である。



仲間と手入れをしている森
(隣接地で大規模開発が計画中)

問 白方街道踏切、 今後の安全対策は

答 令和2年度末までに改良計画策定



新政とうかい
かわの けんいち 議員

問 現在、白方街道踏切については、改良計画の策定や実施を進めるため、村・国・県・JR東日本による地方踏切道改良協議会を設置したと伺っている。また、検討会も設置され、百塚自治会からは「狭い踏切での通行の安全対策のため、歩行者と自動車の通行帯を分離する必要があるのでは」との意見が出されたと同っている。現在の状況と今後の取り組みについて伺う。

答 白方街道踏切は、通学路の児童・生徒の通行の安全を確保する

必要があるとして、平成29年1月に踏切道改良促進法に基づく指定を受けた。その後、平成30年11月には地方踏切道改良協議会を設置し、平成31年4月には関係機関による検討会を行い、百塚区自治会からは歩道整備の意見が出された。現在は令和元年5月から9月までの工期で踏切及び周辺部の現地調査を実施している。今後は今年度開催予定の協議会で検討し、令和2年度末までに改良計画策定に向け手続きを進めていく。



早期改善が望まれる白方街道踏切